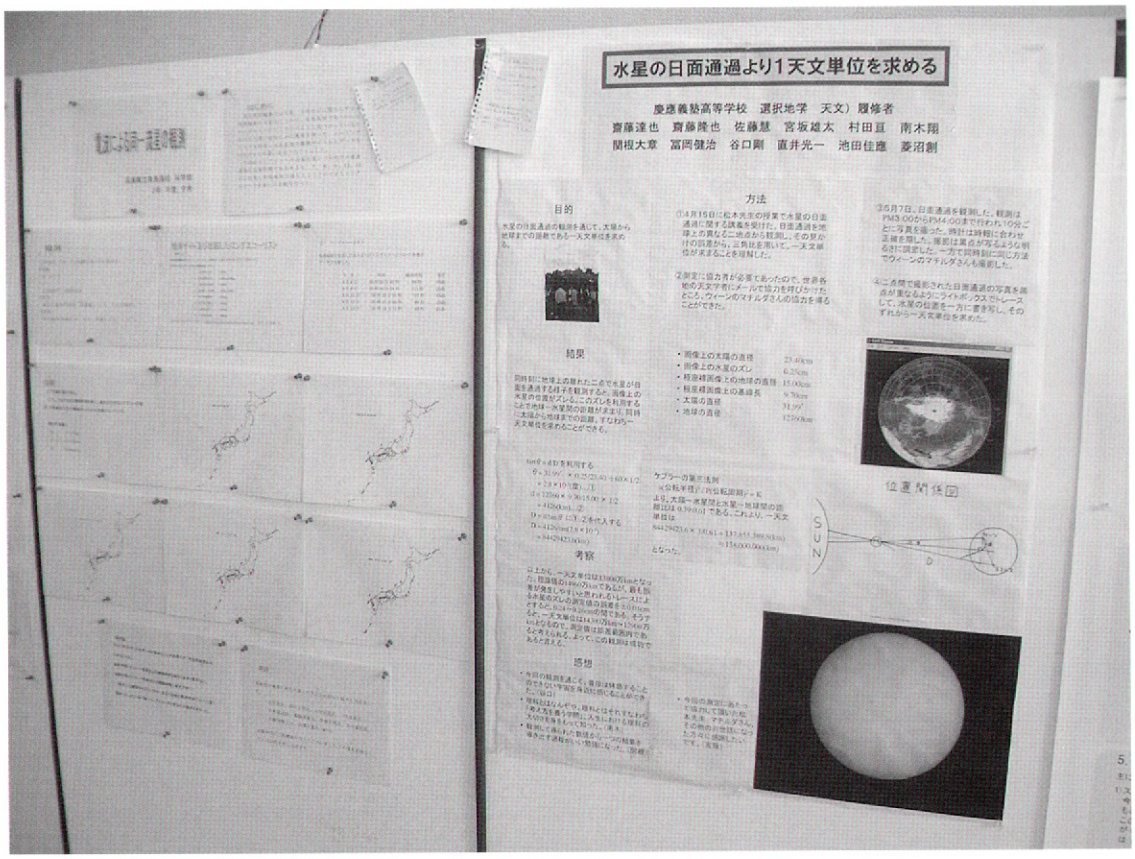
日本天文学会　2003年秋季年会・ジュニアセッション報告

日本天文学会では，これまで，春季年会を中心に5回のジュニアセッションを行ってきました．また，第2回以降は，天文教育普及研究会との共催となっています．今回の年会では，いつものような口頭発表のセッションは設けませんでしたが，地方の中高生に発表の場を与えるために，ポスター発表のみ受け付けました．今回，以下の3件のポスター発表がありました．

「2003年大接近時の火星のスケッチ」(同志社香里中学校)，「電波による同一流星の観測」(有馬高等学校)，「水星の日面通過より1天文単位を求める」(慶應義塾高等学校)の3件です．残念ながら地元からの発表はありませんでしたが，火星大接近や水星日面通過など，今年注目された天文現象を題材にした発表内容でした．ポスター会場では，各ポスターにコメントや感想などが自由に書けるようにしました．このコメントは後日，各学校の生徒に送りました．これらの発表内容は，次回2004年春のジュニアセッションの予稿集に掲載する予定です．また，今回初めての試みとして，天文学研究者と地元中高校生との交流会を企画しました．これは，愛媛県出身の天文学者・天文関係者が多いことから，地元の中高生との交流の機会を設けてみてはということで，実現したもので



ポスター会場の様子

交流会の様子，奥に座っているのが参加した中高生

す．この実現に，愛媛県総合科学博物館の鈴木麻乃さんに地元の高校に声をかけていただくなど，尽力していただきました．この交流会は9月27日の13：30〜15：00という時間帯で行いました．

地元の中高生は引率の教員を含めて，6名（中学生3名，高校生2名，教員1名）が参加しました．研究者は8名，公開天文台・博物館関係が4名，計18名の参加がありました．地元出身の天文関係者として，山岡　均さん（九州大），土居　守さん（東大天文センター），新田伸也さん（総研大）といった方が参加しました．また，天文教育普及施設の関係者として，鈴木麻乃さんのほか，堀　寿夫さん（那賀川町科学センター），吉住千亜紀さん（徳島あすたむらんど）といった方が参加しました．ひと通り自己紹介を行ったあと，中高生からいろいろ質問をしてもらいました．「プラネタリウムの仕事は楽しいか？」「流星はなぜ流れるのか？」「天文学はもうかるのか？」などの質問が出ました．また，参加者の中学生の一人が「これは隕石でしょうか？」と箱に入った石を持ってきて，その場でいた人で鑑定したりしました（結局，結論は出なかったのですが）．交流の中で「すばる望遠鏡の話」や「天文学者になるためにはどうしたらよいか」といった話題も出てきました．「君が天文学者になる3日間」「銀河学校」といった，中高生が参加できる天文イベントの紹介などもありました．当初は果たしてうまく交流ができるかと思いましたが，中高生からもいろいろ発言が出てくれてよかったです．当初1時間の予定でしたが，話が盛り上がって30分，時間を延長しました．初めての企画ではありましたが，非常によい試みだったと思います．今後も，このような天文関係者と交流できるような企画ができればと思います．最後に，このジュニアセッションのポスター発表およびこの交流会の実現に，多大なるご協力をいただきました，日本天文学会の理事およびスタッフの皆さまにお礼申し上げます．

矢治健太郎（かわべ天文公園）